

## 「ヒクイドリと熱帯雨林」

夏休みで遠くに出かけた方も多いでしょう。オーストラリアのケアンズ北方に広がる熱帯雨林に行きましたので、今回は道端をちょっと離れてあちらの自然についてお話しします。デインツリー・フォレストと呼ばれるその熱帯雨林は、なんと古生代後半から中生代にかけて存在したゴンドワナ大陸の名残という世界で最も古いもの。大きなシダや木々を這い上るつる植物に、太古の昔は、ここを恐竜たちが走り回っていたのだらうと思いをはせます。

森の中を歩き回った後、道路沿いのレストランで食事していると・・・大きな鳥が、悠然と現れました、頭上のとさか、首の青と顎からぶら下がっている赤い肉垂がめだつ、ヒクイドリです！ こんな鳥がいるなんて、びっくりです。そのあたりに落ちていた青い実をしばらく食べて、満足するとまたジャングルに戻って行きました。この鳥もまたゴンドワナ大陸由来だとか。まるで古代にタイムスリップように錯覚してしまいます。

絶滅を心配されているヒクイドリですが、これがいなくなるとジャングルに壊滅的な打撃を与えるという

のですから大変です。森の中の植物の実を食べ、森中に種をばらまいて森を育てているのがヒクイドリだからです。種をそのまま蒔いたのでは全く発芽し

ないのに、ヒクイドリのお腹を通った種は、そのほとんどが芽生えると言います。なかでもカソワリプラム（カソワリはヒクイドリのこと）と呼ばれる木の実には猛毒で、ヒクイドリ以外は食べないのです。長い長い時間をかけてジャングルとヒクイドリが築きあげてきた関係なのでしょう。ヒクイドリとジャングル、これからはずっと元気でいてほしいです。

（小川）



カソワリプラム